

新しい授業づくりの文化をつくる 「吹田の授業づくり Update プラン」 校内研究活性化プラン

令和7年11月13日実施 Update プラン通信 第16号 小国 教材研究会

小国教材研究会 11月13日(水)

単元名:モチモチの木

「吹田の授業づくり Update プラン」校内研究活性化プランでは、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は小学校国語科の教材研究会を行いました。授業者より、音読劇を言語活動のゴールに位置づけ、子どもたちが音読劇をよりよくしていくという目的を持って本文を読み、心情を捉えていく学習過程のご提案をいただきました。中野先生より、授業は子供と教材の相互作用が大切であり、そこをいかに教師が見取っていくのかということ、そして子供主体の授業を行っていくためには、本時主義からの脱却が必要であるというご指導をいただきました。この学びを基に、1月20日(火)の授業研究会へ向けて、さらなる授業改善に挑みます。

—講座の目的—
①未知の問題場面に出会っても、解決に向けて行動できる汎用的な力(資質・能力)を子供たちに育むため、学習指導要領に基づいた授業づくりについて実践を通して主体的に学ぶ。
②教師同士のネットワークを構築し、講座での学びを吹田市内で広げるとともに、自校でのOJTに生かすことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりの文化を築く。

—講座の目標—
吹田市の全小中学校が学習指導要領に基づいた授業づくりに取り組む。

授業づくりのプロセス

単元を創る **学習指導要領に基づいて** **本時を創る**

- 育成すべき資質・能力を明確にする
- 見方・考え方の成長をイメージする
- 目指すゴールに対応した問い
- 教科ならではの学習過程(プロセス)
- 見方・考え方を伸長させる明示的指導

授業づくりにおいて大切にしたいこと

- 子供が切実性・必然性のある問いを持つ
- 教師が学習過程(プロセス)も能力であると捉える
- 子供が自分自身の成長を実感する

授業者の提案

Why

なぜ学ぶのか
子供達が身につけるべき資質・能力は？

【知識及び技能】
・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。【(1)オ】

【思考力・判断力・表現力】
・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。【C(1)エ】
・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。【C(1)オ】
・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。【C(1)カ】

【学びに向かう力、人間性等】
・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝えあおうとする。

What

何を学ぶのか
子供達の学習対象は？

【本単元で学ぶ見方・考え方】
登場人物の気持ちの変化や性格、情景が書かれていること、あるいは書かれていないことについて、具体的に想像する力を高める。

【本単元で学ぶ学習過程】
単元を通して、C読むことの4つのサイクルを回していく。

How

どのように学ぶのか
子供達の学習過程は？

音読劇を言語活動のゴールとし、よりよい音読劇にしていくために、豆太の心情等含めて本文を読んでいく。

時	学習活動	見方・考え方を働かせている子供の姿
1	物語を読み、初発の感想を書く	豆太はどんな性格なのか、「臆病」という言葉に着目しながら、自分の感想を考えている
2	学習計画を立てる	「登場人物の性格を想像する」という目標を達成するために、どんな学びをしていくか意欲的に考えている
3	物語の設定を整理する	現代とモチモチの木の時代設定の違いを捉え、豆太とじさまの大事に思い合う関係性を捉えている
4	豆太はどんな子なのか、考える	性格を表す言葉に着目し、自分の経験と比べながら、豆太の性格を想像している
5	昼の豆太と夜の豆太はどんな所が違うのか考える	性格を表す言葉に着目し、自分の経験と比べながら、豆太の性格を想像している
6	なぜ臆病なはずの豆太は、医者様を呼びに行くことができたのか考える	豆太とじさまの関係性から、豆太が医者様を呼びに行った行動の理由を、叙述を基に考えている
7	臆病豆太から勇気のある豆太に変わったのか考える	「臆病豆太」から「勇気のある豆太」に変わった理由を叙述を基に考えることができている
8	音読劇の役割を決める 練習	豆太の性格や気持ちを基に、セリフの言い方やなりきりするための工夫を意欲的に考えている
9	音読劇をして、レベルアップしたレインボーになろう	友達の音読劇を見て、よりなりきれている人を見つけている

【単元終了時の目指す子供の具体的な姿】

- 自分だったらどう行動するか、どんな気持ちになるかを考え、自分と比べながら、叙述を手掛かりにして、登場人物の性格を想像する姿

本時の目標				
豆太の性格について、登場人物の行動や性格を表す言葉に着目し、話し合ったことをもとに、自分の考えを持つ。				
働かせたい見方・考え方				
○登場人物の行動や性格を表す言葉に着目し、豆太の性格を想像している。 ○みんなで話し合ったことを基に、自分の考えを問い直す。				
学習過程	構造と内容の把握	精査・解釈	考えの形成・共有	考えの形成・共有
子供の問い	○豆太はどんな性格をしているのだろうか？ ○性格って例えばどういうこと？	○豆太って臆病なの。 ○昼と夜で性格が変わっている。 ○臆病から勇気のある子どもにも変わったのかな。	○豆太って臆病なの。 ○昼と夜で性格が変わっている。 ○臆病から勇気のある子どもにも変わったのかな。	○豆太はどんな性格なのだろうか。
本時の学習活動、内容	○学習課題の確認 本文から、豆太の性格を考え、話し合おう。 ○性格を表す言葉を考えよう。 →サーカスのライオンのじんぞ、のび太、ジャイアンはどんな子なのか考え、性格を表す言葉の語彙を増やす。(教科書P153を参考に) ○音読 ○本文から豆太がどんな子なのかわかる場所を見つけよう。	○本文から豆太がどんな子なのかわかる場所を見つけよう。 →本文の中から、根拠となる場所を見つける。(自分で考える)	○豆太って臆病な性格といえるのだろうか？ ○豆太は臆病から勇気のある子どもにも変わったのだろうか？ →豆太はどんな子なのか、考えたことをみんなで話し合おう。	○みんなで話し合ったことを踏まえて、自分はどう考えたか。
見方・考え方	性格を表す言葉でどんな言葉があるのか、自分の生活経験を基に考えている。	性格を表す言葉に着目し、叙述を基に豆太の性格を想像している。	性格を表す言葉に着目し、叙述を基に豆太の性格を想像し、話し合っている。	話し合ったことを基に、豆太はどんな子なのか、自分の考えをまとめている。
指導上の留意点(●) 評価規準及び評価の方法(★)	●子どもたちにとって必要感のある問いになるよう、音読劇をするためには登場人物の性格を知らないと、表現の工夫ができない！という話にもっていく。 ●豆太がどんな子かわかる場所(教科書)に赤線を引く。	●根拠となる言葉を見つける際には、性格を表す言葉や性格を想像させる言葉に着目させる。 ●ノートに自分の考えをまとめる。	●板書で子どもたちの意見を整理しながら、みんなで話し合いをする。	●考えをまとめることが目的ではなく、話したことを基に今考えている豆太の性格について、ノートに書き留めることができたらいいよということ伝える。

講師
新潟大学附属新潟小学校
中野 裕己氏

新潟市立公立小学校教諭を経て、現在新潟大学附属新潟小学校にて指導教諭として勤務。同校で研究主任も務めている。授業は「子供と教材の相互作用」を合い言葉に、子供の学びを支える授業づくりを大切にしている。全国国語授業研究会監事。授業改善コミュニティ「授業てらす」プロ講師。教員サークル「国語授業“熱”の会」代表。



中野先生より

国語科の目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

0 音読劇について

○単元を貫く言語活動

「読解学習」「音読劇を通して学習すること」「教材の深い意味を目指すこと」がうまくリンクできていないということは議論されてきている。

本単元で言えば、性格を捉えることと音読劇がどう結びつくのか。

○学習過程でいうと…

音読は、「構造と内容の把握」とは言い難い。が、「精査・解釈」にあたる。

例)「まったく豆太ほど臆病なやつはない」をどう読むのかは解釈次第。

言葉でしか書かれていない。どんなイメージを浮かべるかは解釈である。

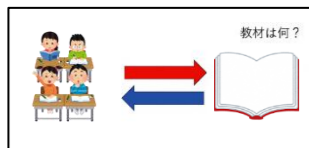
What 何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

1 授業とは…

○授業とは？

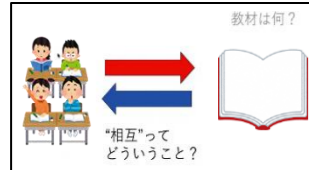
先生と子供ではなく、**子供と教材の相互作用**であると考える。



では、今回の教材は？→『モチモチの木』
もう一歩深めて…『モチモチの木』の何が教材？

授業の教材は何だろう？『モチモチの木』の“何が”教材だろう？と考えてみる

○相互作用とは？



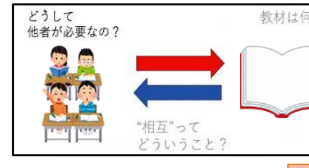
人と人であれば相互作用はわかりやすい！
では、教材との相互作用とは？教材はじゃばらない



何を考えながら読むかによって、文章で気になる言葉は変わる

何を考えようとしているかによって、物語がうったえかかってくる

○どうして他者が必要？

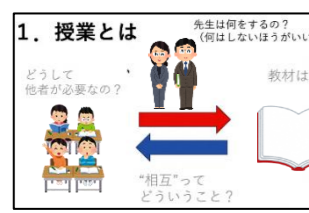


子供と教材の相互作用になぜ他者が必要？



他者を通して教材とつながる

○では、先生は？



先生の“出番”を意識する。先生の役割は“つながり”をつくること。

【発問】教材と相互作用する“きっかけ”を与える

【指示】話し合おうなど他者とつなげる

先生はつながりをつくるためにいる

【紹介】だれかの気づきを紹介する

【フィードバック】考えに対して、新たな視点を与える

○音読劇を行うにあたり
この単元で、もし「正しい読みを目指す」(※そもそも「正しい読み」というものがあるのかどうかは別の議論として…)という考えで授業をするならば、音読劇はやめておいた方がよい。

音読が解釈⇒多様な解釈を音読劇には投影させていくことが適切

→「多様な読みがある」「答えは子供が作る」という授業観のもと、〈性格を捉える〉という読解の学習をして、それがどこに生きたのだろうと考えながら子供の音読劇を見つめる」のであれば有り。

○授業を行う際に意識していること…授業研究でも言えること

答えを教えることはできない

先生方はどう感じますか？

根拠や理由のない答えや異なる答えを考慮しない答えは答えにならない

一緒に楽しく悩みましょう！

Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

2 育成すべき資質・能力と教材

教材によって育成しやすい資質・能力は変わる

○教材による違い

協議会において…『サーカスのライオン』と『モチモチの木』との違いが話された
→教材の違いに注目することは大切

どの教材でも同じように授業を進めるのはAIでもできる。授業をするからには、〈教材に合わせた〉ということが大事。

○『モチモチの木』で育成しやすい資質・能力とは？

他の教材よりも『モチモチの木』が育成しやすい資質・能力…**性格**

人物の性格を想像するという学習のために非常に適した教材



『モチモチの木』で育成「しやすい」資質・能力とは？
教材によって育成「しやすい」資質・能力は変わる

- ・語り手の評価…文章の冒頭で豆太の性格を定義づけてくる
- ・豆太の自己評価…「おれはダメだ。ブルブルだ。」という自己評価
- ・じさまの評価…豆太を臆病だと言ったことはない、思ってもいない。
→子供は「じさまが豆太は臆病だと言っている」とよく言う。
そこで、「本当？」と聞くと、「違う！ナレーターだ」と言うことが多い。
文章に再度アクセスすることで、子供の読みが変わるところ
- ・豆太の行動…昼「やーい、モチモチの木。実落とせ」夜になるとダメダメ山場の場面では、夜道を走る豆太の行動が描かれている
臆病だと定義された豆太の行動は性格を捉えるのに大事な根拠となる
- ・場面の移り変わり…最初の場面と山場の場面と最後の場面
- ・象徴としての「モチモチの木」…勇気象徴

性格を中心に置くと、物語の様々な点が結びついてくる。

ただし、性格という概念(性格を「変わるもの」として捉えるか、「変わらないもの」として捉えるか)をどう授業者が捉えるかで子供の読みの支え方が変わる。

その教材だからこそ読む点を中心に、育成すべき資質・能力を捉える

ここを見抜くのが難しい。が、「多くの子どもたちが興味を持っている点は何か？」「では、それは指導内容でいうどこに関わっている？」と考えると中心にすべきものが見えてくる。

みなさんはどのような授業者を目指しますか？
若手にどのような授業者になってほしいですか？

教師の仕事は、常に変わり続けることができるということも面白さのひとつ。

誰かに向けて変わったことをアピールする必要は無い。自分の中で、今日こんなこと変えてみたよっていうことが日々あるということが楽しさだと思います。

きちんと授業を計画して、その通りに進行できる授業者

授業を多様に計画して、それらを組み合わせて即興的に進行できる授業者

自分の計画を、子供の姿から変更し、子供に寄り添って進行できる授業者

How どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

3 本時主義からの脱却

○本時主義とは…「本時」の積み重ねで単元が構成されている

本時	結末について、考えを交流する
本時	中心人物の変化の理由を想像する
本時	中心人物の変化を捉える
本時	設定を捉える
本時	文章を読んで初発の感想を書く

単元と見せているのは先生だけ 子供は本時の積み重ね。

教師の論理ではつながついていない
例)「初発の感想を書いたら、まず物語の世界観を捉えさせるべきだから、設定を捉えさせよう。」
「その後、人物がどう変わったのか、なぜ変わったのかという順で捉えていくと内容が全部見えてくる。」
「考えを交流すると、考えが形成されるだろう」

子供の立場になって考えてみると…
子供の論理はつながついていない。本時の積み重ねで単元ができているだけ。

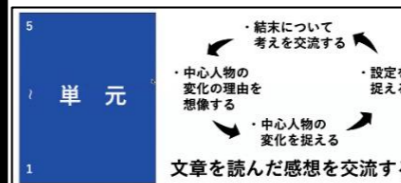
設定を捉えたことが、中心人物の変化を捉えることにどうつながっているのか。

変化を捉えたことが理由を想像することにどうつながっているのか。

○イメージから変えていく

本時の積み重ねという意識をなくし、「単元でひとまとまり」だと考える

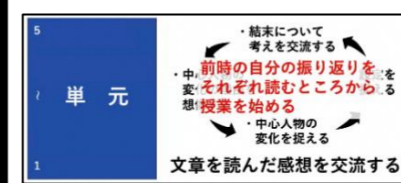
毎時間、「めあて」が出て、最後に「まとめ」ないと終われないということはない。



子供は、ぐるぐる回っている。中心人物の変化の話をしている時に設定の話をする子もいるはず

問題は…

先生が1時間ずつ、きれいにぶつ切りにして「まとめ」をすることで、子供の中でつながらなくなる



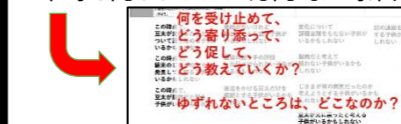
子供の中でつながらるように仕上げるためには、先生が「今日のめあてはここで、ここしか考えちゃダメ」って言わないこと。めあては広くていい。45分にとどめず複数時間という意識を持つてみる。

〈つなげるために〉
前時の自分の振り返りを読むことから授業を始めてみる

子供の論理がつながる時間をとってあげることが大事

○指導案では…

- ・第1時と2時はシームレスで良い。重要なことは、1時と2時で切らないということ。
- ・第3～7時、ここを各時間で「めあて」を出しては、本時主義からの脱却はできない。ここもシームレス。
→実際の授業では、指導案のようにきれいに分かれていないという意識を強く持つことが大事。
- ・本時も同じように一方向的に時系列で進むわけではない。子供によって異なる在り方で学習が進む。



全てを受け止めることはできないので…
何を受け止めて、どう寄り添って、どう促して、どう考えていくか。そして、譲れないところはどこなのか。を考えると中心にすべきものが見えてくる。

の感想 受講者

- ご指導いただいた内容を校内研究に取り入れ、変わるきっかけとしていきたい。
- 本時主義で単元学習を行っていると感じた。脱却できるよう努力したい。
- 「教材は何か？」もう一度自分に問い直していきたいと思えます。